

問 木質バイオマス事業の今後の展開について

答 主要な課題として積極的に取り組む

岸本 義明 議員

問

ゼロエミッション事業の中でも、宍粟市の場合、バイオマス資源の87%が木質バイオマスなので、それを中心に資源循環、事業創出を考えるべきだと思いますが、近く立ち上がる木材センターが10万㎡もの原木を製材すると相当量の木質バイオマスが排出されます。その利活用について市としてどのような指導をされますか。

産業部長

大半は熱源として利用し、オガは販売する予定で、ゴミは出さないと聞いています。その方向でお願いしたいと考えています。

問

新年度の事業展開は



バイオマス事業
実証実験

市長

これまでの研究成果をもとに、木質ボイラの導入、木質ペレット製造の企業化、林地残材の資源活用等の検討を進めるとともに、市民への森のゼロエミッションの啓発を行います。

問

ゼロエミ活動は環境、産業、廃棄物、健康、教育等、多岐の分野に渡るので、企画部を含めて全市的な取り組み体制を図るべきです。さらに、民間がゼロエミ事業に取り組むなら、相心の助成も必要だと思えます。

市長

市の主要課題と位置づけ、積極的に取り組めます。民間の取り組みに対しては、政府の補助の活用も視野に、可能な助成を考えていきます。

問 観光客招致計画の推進を

答 事業の方策を見出す

西川 省二 議員

問

人々は、心の安定や充実のために癒しを自然に求めています。宍粟市は多くの観光資源に恵まれており、京阪神の人々の癒しの観光地として絶好の位置的環境にあります。京阪神の一大観光地として、常時観光客を招致できるよう、計画の取り組みを進めるべきではないか。

市長

光地宍粟の特産料理の開発。以上の推進を。

観光地宍粟市をイメージするキャッチフレーズの作成。常時観光客招致のため、観光ルートの開発やネットワーク化を計ること。観光宍粟のPRと案内のマニユアルの作成。観

これまではイベントを大事にした観光事業を進めてきた傾向はありますが、やはり年間を通じた集客・リピーター確保を図るためにも、観光事業の方策を見出していく必要があると考えます。そのために宍粟市観光のキャッチフレーズを作ることは大事であるので検討を進めます。観光のネットワーク化については近隣市町との連携も考えていきたい。宍粟観光のPRについてはメディア関係約70社にダイレクトメールを送っており、さらに積極的にPRしていきます。料理の特産化については独特のものを作り上げていく。今後、観光関連業者や近隣の行政と連携を強化して宍粟市の観光事業を展開していく所存です。



音水湖と菖蒲園